

## ことばに親しむ環境づくりに関するアンケート結果より

年長児保者の  
みなさまへ

小学1年生になると、文字の読み書きや計算などの学習が始まります。幼児期に大切にしたいことは、子どもの興味や関心を十分に広げながら、文字や数量に関わる感覚を豊かなものにすることです。このような感覚が、小学校における文字や数量の学習の生きた基盤になります。幼児期からのことばに親しむ環境づくりを通して、小学校における学習の土台づくりを一緒にしていきましょう。

## ことばに親しむ環境が増えています！

- 本を読んだり、読み聞かせが好きなこども・・・68%
- 家庭での読み聞かせ 毎日及び週に数回・・・68%
- ことば遊びの頻度 ほぼ毎日 週に数回程度・・・47%
- お子様と一緒に遊ぶ ほぼ毎日・・・63%  
週に数回程度・・・24%
- 図書館・図書室・移動図書館などの利用 毎週利用及び月に2～3回及び月に1回・・・36%
- 絵本の冊数 20冊以上・・・74%
- 手紙やカードなどを書いたり遊んだり 渡したり好きでよくやっている・・・52%

読み聞かせやことば遊びなど楽しい活動をとおして、ことばが豊かになります。子どもたちが自分で文字を読む力を育てることが学力の向上にもつながります。お子さんの発達段階や興味関心に合わせて、ことばに親しむ環境を整えましょう。



本や文字にふれる機会が少ないお子さまもおられるようです。お子さまとの何気ない日常のふれあいや会話、遊びを通してことばに親しめる育ちのたねをまいていただけたらと思います。

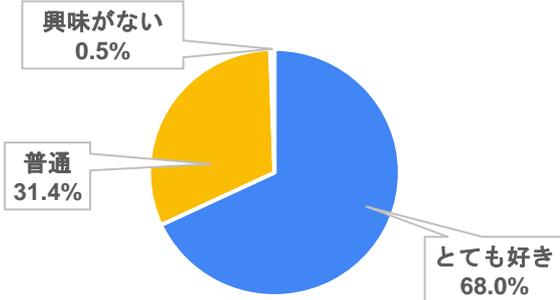
保護者の自由記述の中に参考となる内容が記述されていまして、一部紹介させていただきます。

【ことばに親しむために、幼児期に重要なこと】  
(保護者の自由記述より)

- 意識的に絵本の読み聞かせをすること。親や家族が読んだり書いたりする姿を見せ、興味のきっかけづくりをしています。
- しっかりとコミュニケーションをとり、会話を大事にしています。まだまだ言葉、表現が苦手なので、ゆっくり聞いて訂正しながら話すようにしています。
- 自然との触れ合いや地域の行事など様々な体験を通し、人と人との関わりも重要だと感じています。
- 絵しりとりなど目からの情報を取り入れながらの遊びも有効でした。意味を理解出来なくても、ひらがなやアルファベットの文字をなぞる練習もお絵かきの一環としてさせていました。
- ことば遊びや手遊びを取り入れ、文字に興味をもったタイミングで遊びながら楽しく学ぶことをしています。

# 主なアンケート結果と分かったこと・取り組みたいこと

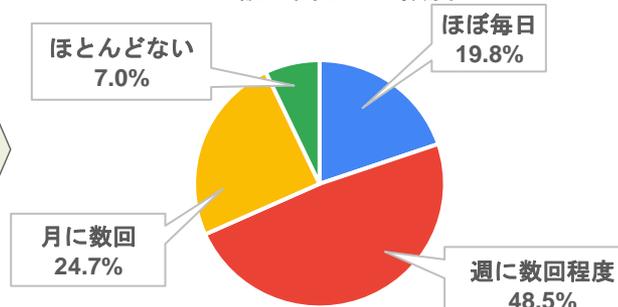
## 1 本を読んだり読み聞かせが好き



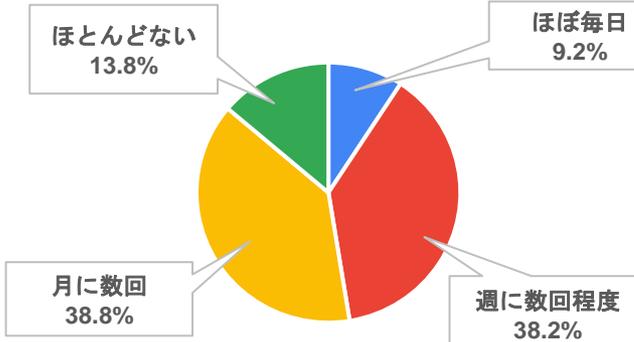
「読み聞かせ」が多いほど、「本を読んだり、読み聞かせをしてもらったりすること」が好きな子どもの割合が高い傾向があります。

親が本を読む姿を子どもに見せることも、子どもが本に親しみをもつことにつながります。

## 4 読み聞かせの頻度

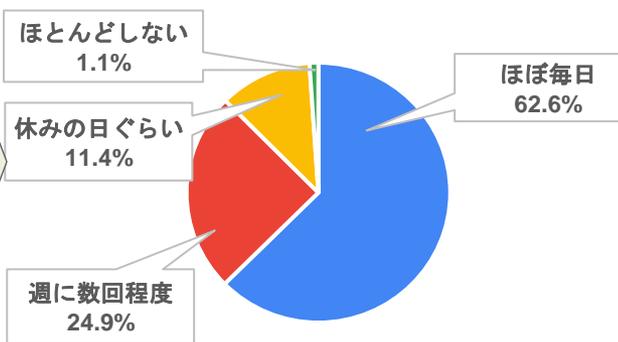


## 5 ことば遊びの頻度

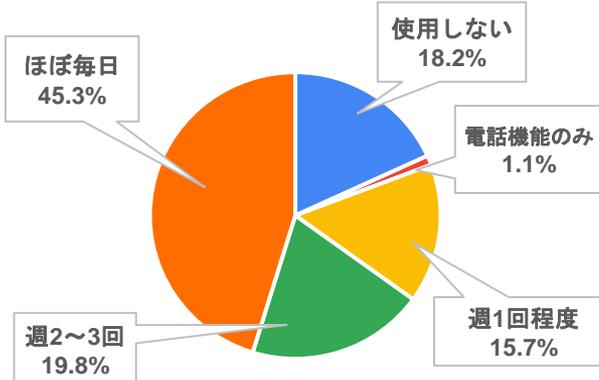


多くの家庭で、子どもとの遊ぶ時間をつくられています。しりとりやかるた、クイズやごっこ遊び、歌を一緒に歌う、手紙やカードを書いたり渡したりするなど、ことばに触れる機会をさらに増やしていきましょう。

## 7 お子様と一緒に遊ぶ頻度



## 8 お子様がスマホ・タブレットを使う頻度



スマホやタブレットは、ことばに触れる大切なツールです。使う頻度や使用時間が年々増加しており、就寝時刻が遅くなり生活リズムが乱れたり、視力低下を招いたりするなど、健康への影響が懸念されます。使い方のルールを決め、適切に活用するようにしましょう。

## 13 就寝時刻

